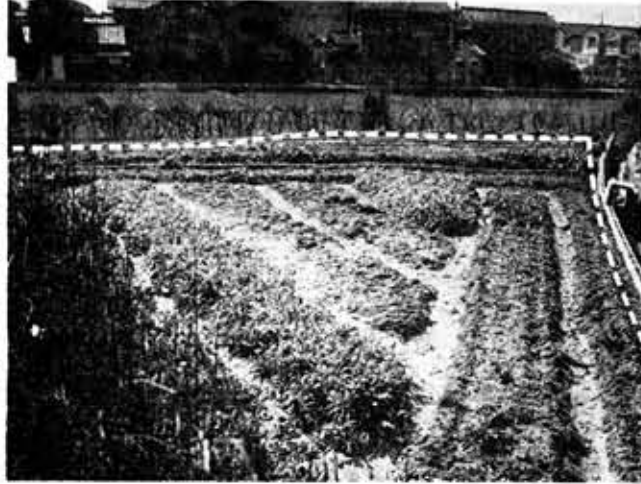


- ◎向日市民憲章◎
- 1 住みよいまちを力を合わせつくりましょう
 - 1 きれいな緑と水と空を守りましょう
 - 1 働くよこびと心のふれあいを大切にしましょう
 - 1 すぐれた教育と文化を育てましょう
 - 1 明るいくらしと福祉のまちをきずきましょう

なぜなくならぬ放置自転車



まだ目立つ自転車の不法駐車。人や車の通行の妨げに……



寺戸町飛竜の仮設自転車置場建設予定地(点線手前の部分)

阪急 東向日 銀輪公害解消へ置場建設

阪急東向日駅の西側で、また自転車の不法駐車が目立ってきました。市では、すでに駅の東西二か所に置場を設置していますが、特に西側の利用度が高く、入りきれない自転車が道路にあふれ、人や車の通行の妨げになるなど銀輪公害を引き起こしています。このため、市では西側にもう一か所自転車置場の建設に着手することになりました。

市では、阪急東向日駅周辺の銀輪公害解消のため、このほど市内で三か所目の自転車置場を設置することになりました。

すでに、駅の東西二か所には、自転車置場がありますが、オープン当初から西側はいっぱい、東側はガラガラの「西高東低」の利用状況に加えて、駅近くの人までが西側の置場を利用されるようになったため、入りきれない自転車などの山積みや不法駐車が最近目立って増えはじめ、まちなみも損ね、また人や車の通行の妨げとなつています。

このような現状をふまえて、市では、関係者各位の協力を得て、既設の西側置場の北、寺戸町飛竜に二百八十七平方メートルの土地

置場のご利用を

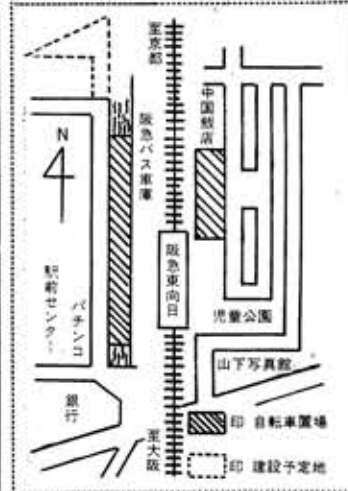
阪急東向日 東側はガラ空き

市では、すでに阪急東向日駅周辺の銀輪公害解消のため、昨年四月に駅の東側に約二百台、西側に約三百五十台収容可能な自転車置場を設置しています。

これで不法駐車は約五十台に減ったものの、置場は東側はガラガラ、西側はほぼいっぱいの利用状況が続き、市では、置場の有効的な利用の訴えや悪質な放置自転車を移動するなど、住



利用されない東側置場



み良い生活環境づくりに努力してきています。

しかし、数回実施した放置自転車の移動も、すっきりしたかと思えば、すぐまた元通りのイタチゴッコで銀輪公害解消にあまり効果はあがりません。

電車に間に合うようにという気持はわかりますが、せっかくなので、宝のもちぐされにしないよう、みなさんの良識ある行動をお願いいたします。

この自転車置場は、市民のみなさんのものです。広く有効に利用するため、次のことにご注意ください。

△利用上の注意▽

- ◇自転車以外のものは置かないでください。
- ◇自転車は必ずラックに前輪をさしこんでください。
- ◇みんなの自転車が出入し入れしやすいよう順序よく置いてください。
- ◇紙クズやタバコのすいがらなどを捨てないで、清潔にしましょう。
- ◇盗難、破損などの責任は一切負いませんので、必ずカギを。また、自転車には住所、氏名、電話番号を書いてください。
- ◇長期間、同じところに置いてある自転車は、処分することがあります。

を購入。ここに自転車約二百五十台、バイク約五十台を収容するもので、総費用は千四百五十万円、完成は、今年四月初旬の予定です。

このような放置自転車をなくすには、置場の設置も必要ですが、それ以上に市民のみなさん一人ひとりの良識が必要です。

駅周辺に限らず、自転車をとどこまわす放置されると、交通安全の面で人や車の通行の妨げに、また防犯の面でどろぼうの足場になるなど、たった一つの行為から多くの問題が起これてきます。

銀輪公害をなくすには、市として十分な対策を講じなければならぬのは言うまでもありませんが、結局は、市民のみなさん一人ひとりが「住み良いまちづくりは自分たちで」というぐらゐの自覚をもつていただくことが、今一番大切なことではないでしょうか。

怖い夜間の交通事故

2月は1月に続いて、寒さのぎの飲酒運転が目立つ時期です。また、夜は交通量が減ることもあって、スピードを出しがちです。

運転者は、飲酒運転はぜったいにしないことはもちろん、車のスピードも控え目にし、とくに夜間は歩行者や自転車の動きに十分注意していただきたいものです。

警察庁が、交通事故について興味ある実験をしています。夜間、歩行者にそれぞれ黒、灰、黄、白色の服を着て道路を横断してもらったところ、運転手は、白い服を着た人については120メートル先にも見つけることができ、黄色もだ

いたい同じ、灰色は70メートル前後が限界でした。

ところが、黒い服は40~50メートル先が「視認性」の限界で、車がわずかに20メートルに近づいても、はっきり確認できない状態でした。

冬はとくに黒っぽい服を着がちです。とくに夜は、車の流れに十分気をつけたいものです。

また、交通事故は圧倒的に昼間が多く全体の7割を占め、夜間は3割となっています。ところが、死亡事故でみるとその割合は逆転し、夜間が過半数を占めています。

夜間の交通事故には、くれぐれもご注意ください。

夜間に多い死者

